

高学年総合 「母子小学校校歌について」

今年、新型コロナ感染拡大の影響でほとんど歌うことのできなかった「母子小学校校歌」について、校歌に出てくる言葉に中から気になる場所を選び、母子のその場所に行ったり、インターネットで検索したりして、調べ「冬の学習発表会」で発表しました。

一、津の国と丹波の国と

境する山の上の

小さな村のわがまなびや

白雲はゆく 三国の峰を

明けくれ ながめて

つちかい抱く

高いこころざし

二、風かおる 茶山の朝を

もろごえに 鳥はなく

平和な静かな母子の里

古いみ寺の木立を見つ

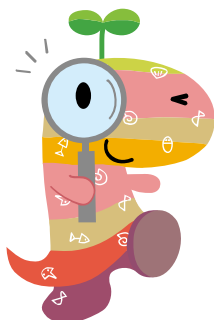
日々に すくすく

のびゆくわれら

ああこのしあわせ

(1) 摂津の国と丹波の国

母子は、校歌にもあるように、摂津の国と丹波の国の境に位置しています。そこで、二つの旧国（摂津・丹波）について、インターネット、本、冊子などを使って、「ゆるキャラ」、「山・川」「城」「特産物」について調べました。



ちーたん
(丹波市)



キッピー
(三田市)



篠山城
(丹波篠山市)



三田城跡
(三田市)

1学期は、特に、「ゆるキャラ」「山・川」「城」について調べました。ゆるキャラは、それぞれの地域（市・町など）で有名なものがデザインされていました。例えば、丹波市の「ちーたん」は、昔の地層から恐竜が発見されたこと、三田市の「キッピー」は、市の鳥・キジから名づけられたことがわかりました。その他にも、地域の商店街が作ったものなど、たくさんインターネットから見つけていました。

また、お城は、明智光秀で有名な「黒井城・八上城」、最近になって再建された伊丹城など、その歴史についても、ノートに書いていました。

さらに、2学期以降は、「特産物」について詳しく調べまとめていました。兵庫県や各市

町から出ているパンフレットを見ながら、いろいろな特産物を見つけたのですが、子どもたちは、兵庫県の資料を参考にしながら、それぞれ3つの特産物を旧国の代表としていました。

・摂津の特産物

三田牛（三田市）

しいたけ（猪名川町）

イチジク（川西市）

・丹波お特産物

栗（丹波市）

ボタン鍋（丹波篠山市）

黒豆（丹波篠山市）

調べる過程で、「買い物には（丹波）篠山によく行く」「ショッピングモールには三田方面に行きます」「歯医者は丹波、皮膚科は摂津？」など、母子の子どもたちは、旧国境にある小学校なので、どちらともつながっていました。生活様式も、二つの文化を取り入れているようでした。

（2）雲海（白雲）・三国ヶ岳

晩秋の12月11日（金）、身を切るような寒さの中、「雲海」を見ようと、標高648mの三国ヶ岳に登りました。小学校を出て、登山口の「ふきのとう休憩所」まで行き、そこから約30分で、山頂に着きました。



登山口

8:25 ⇒



倒木で休憩



山頂

⇒ 8:50

三国ヶ岳山頂まで登らなくても、篠山方面へ降りる県道から、車の中から「雲海」は見ることもできます。つまり、母子の人は、気象条件さえ知っていれば、山の上の小さな村・母子から簡単に「雲海」を見ることができます。



「雲海」が見られる条件とは、

- ・春か秋
- ・湿度が高い
- ・無風
- ・山の上
- ・朝
- ・放射冷却
- ・快晴

(3) 茶山

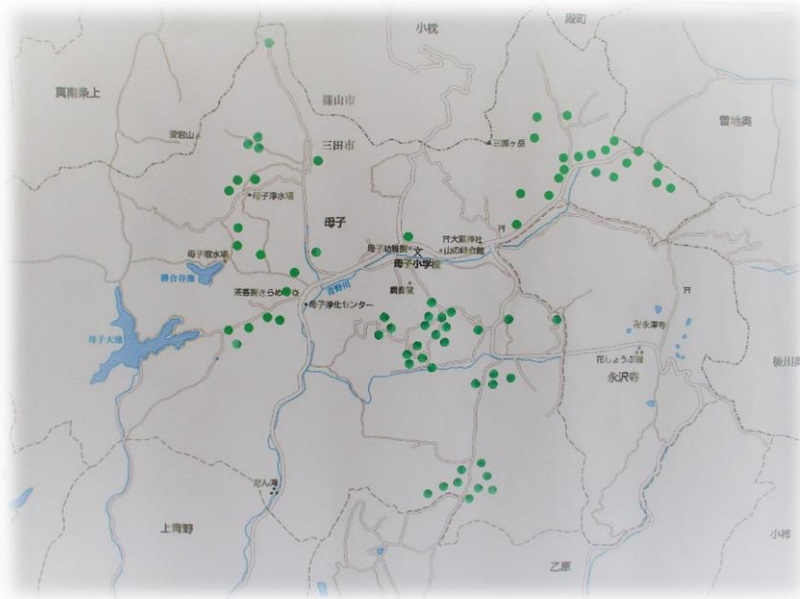
茶畑については、母子茶だけでなく、隣の丹波茶についても、その特性を丹波篠山市のHPから調べた。とても近い地域に二つの産地があり、貴校を生かしているところはよく似ているが、標高の高い母子では斜面で、盆地の篠山では平地で栽培するなど、写真などから気づいていました。



母子茶



丹波茶



また、航空写真と照らし合わせながら、母子の地図に「茶畑」の場所にシールを貼っていきました。母子の道に先には、必ずと言っていいほど、茶畑があることがわかりました。昔の人は、まず道を作って、そこで「茶畑」を広めていったかもしれません。

さらに、三大〇〇と書いてあるものを発見、それを拡大して、お茶の三大〇〇を調べて地図で確認した。

二大お茶産地 (兵庫)	母子 (三田市)	丹波 (丹波篠山市)	
三大お茶産地 (近畿)	宇治 (京都府)	大和 (奈良県)	伊勢 (三重県)
三大お茶産地 (日本)	宇治 (京都府)	静岡 (静岡県)	狭山 (埼玉県)
三大お茶産地 (世界)	中国	インド	スリランカ

(4) 鳥

校歌にある母子で鳴く鳥について考えると、まず最初に思い出すのがキジだった。登下校中や一輪車の練習中によく鳴いている、とみんなが気づいていた。さらに、小学校上空でよく見かけるトンビや永澤寺によく出てくるフクロウが上がってきた。ただし、鳴き声は聞くけれど、実際の姿はあまり見ていない、ということで、県立人と自然の博物館より下記の剥製をお借りした。毛並みや足の爪などを詳しく観察していた。



(5) 永澤寺 (古いみ寺)

永澤寺については、そば道場での「そば打ち体験」と関連させながら、建立されたころの歴史を中心に調べ発表した。



また、図工の授業の中で、永澤寺の版画（一版多色刷り）を制作した。永澤寺のお気に入りの場所をモチーフに、建物の線を生かした作品づくりに取り組んでいた。



今年度は、新型コロナのために、地域とつながる機会は少なかったが、できるだけ地域に赴き、体験・経験をしてきた。来年度以降に、これらが花開くことを期待したい。